

ウポポイ 7月で開業1年

逆風下 道内外24万7千人がアイヌ文化に触れる 「扇の要として一層の充実を目指す」

アイヌ文化の復興と発展の拠点として国が整備したウポポイ（民族共生象徴空間）は、7月12日で開業1年を迎えます。コロナ禍による再度の開業延期、入場制限、さまざまなプログラム・体験の縮小・中止などに見舞われながらも、入園者数は24万6,894人（6月18日現在の速報値）となりました。管理・運営するアイヌ民族文化財団に4月に着任した齊藤基也新運営本部長に、この1年と今後について伺いました。



前職は、北海道開発局事業振興部調整官兼アイヌ関連施策監理官。北大卒業。札幌市出身。現在は白老在住。59歳。

「このように状況でスタッフは少しでも来場者が学ぶ満足感を高めたい」と、コロナ対策に目配りした中でもできることを模索。工夫と努力で新たな取り組みを生みだしています。一方「課題も見えてきました」と、

「工夫の中から課題」
「このように状況でスタッフは少しでも来場者が学ぶ満足感を高めたい」と、コロナ対策に目配りした中でもできることを模索。工夫と努力で新たな取り組みを生みだしています。一方「課題も見えてきました」と、

入園者数は約24万7千人（このうち博物館入館者数は約18万6千人）、小中高校の修学・見学旅行など教育旅行は約80校となりました。



コロナ禍で機能発揮できず

「扇の要として」
本部長就任は「びつくりしたというのが本音。約1年はアイヌ関連施策監理官でしたので、まあ何とか」と笑い、初めての白老生活を過ごしている。「扇の要としてウポポイ

「扇の要として」
本部長就任は「びつくりしたというのが本音。約1年はアイヌ関連施策監理官でしたので、まあ何とか」と笑い、初めての白老生活を過ごしている。「扇の要としてウポポイ

今後についてさまざまな角度から検討しています。
1周年イベントも
博物館の展示に関しては「研究活動の進展が重要ですがその結果の伝え方も考えていきたい」と、誘客は「コロナ禍が収束に向かえば当初予定していた海外客や団体に期待するところだが、現状ではやはりニーズに合ったコンテンツを充実させること」、道内各地域の団体との交流も推進させ、「日ごろの連携に加え、合同の文化イベントなども」、1周年を迎える記念に関しては「何らかの形でイベントを」と、夏休みの特別イベントも含め思案中です。文化伝承や人材育成は「アイヌの人々の心の拠り所となるのがウポポイの重要な役割」と自論を披露していました。



「環境づくりに努めたい」

ポロトミンタラのにぎわい 今年も「フェスティバル2021」開催 7月の第1弾は「ウポポイ開設1周年記念イベント」

町はウポポイの開業を契機として、周辺のにぎわい創出や観光客の周遊性を高めるため、「しらおいポロトミンタラフェスティバル2021」を開催し、本町の持つ豊かな食資源、特産品、観光資源などを広く発信し、ウポポイの集客との相乗効果を目指します。 会場：ポロトミンタラ（白老駅北観光商業ゾーン）若草町1-1-21

7月17日(土)、18日(日)

「ウポポイ開設1周年記念イベント」

【内容】 アイヌ文化の発信を軸に、オハウの提供やエント茶の試飲、アイヌ工芸品の展示販売ほか、野菜の直売など地元事業者が出店します。

8月21日(土)、22日(日)

「しらおいこどもフェスティバル」

【内容】 子ども向けショーや知育玩具の設置、ミニスタンプラリー、テイクアウト可能なご当地グルメの販売など。

9月25日(土) ※予定

「食と音楽フェスティバル」

【内容】 ミニ音楽フェスティバルとして地元吹奏楽団、吹奏楽部、札幌を拠点とするアーティストのライブ、食の提供として大鍋でのパエリア提供など。

※イベントは、新型コロナウイルス感染症予防対策を行った上で開催しますが、開催時期の感染拡大状況により規模縮小や延期、中止する場合があります。

問い合わせ先：産業経済課 観光振興グループ ☎82-8214